

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立墨江丘中学校

令和 7 年 4 月

(様式 1)

大阪市立墨江丘中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国、府、市が主催となる学力テストにおいて、ここ数年大阪市平均レベルを上下する程度にとどまっている。当然個々の課題もあるが、全体的にはこの数年、国語の読解力が低迷している。そのことは、他教科にも少なからず影響している。基礎学力が定着していない層も増えつつあり、一定の実力のある層との 2 極化も進みつつある。ある程度実力のある層に対しても、課題である読解力アップや更なる学力向上を目指し様々な取り組みを展開する必要がある。そのために、ICT を活用した授業の在り方を通して、思考力・判断力・表現力を高め、わかりやすい授業を展開する。校内テストで採点支援システムを活用し、様々な角度から生徒一人ひとりの弱点を明確にし、授業改善に努めたい。
- 普段の生活では見受けられないが、昨年の校内アンケートから規範意識は高いものの、自己肯定感に低い数値が表れる。SDGs の取り組みや人権教育を通して生命の尊さや、自他の命を尊重させる心を育て、また、社会の一員としてその文化に触れ、地域活動に参加することにより地域の方々のつながりを深めさせ、次世代の街づくり、更には地域防災へとつなげていく。
- 不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)の整備にも着手しながら、既成概念にとらわれない学び方についても模索する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- 校内調査において、不登校生徒の在籍比率を 2.30%以下にする。
- 校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を 65%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も 1.00 以上とする。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 56%以上にする。
- 校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICT を活用した授業において、全教員でのべ 10000 時間以上とする。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%とする。
- 墨江丘タイムを年間 6 回以上、ノー残業 day を年間 10 回以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **85%以上** にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 **(6.9%)** より減少させる。
- 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 **(24.2%)** より **1.0%** 以上増加させる。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を **95.5%** 以上にする。
- 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。
 - ・「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 **86.1%**)
 - ・「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 **96.6%**)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を **40.8%以上** にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より **0.01 ポイント** 向上させる。(2年 前年度 国語 **1.06** 数学 **1.17** 3年 前年度 国語 **1.04** 数学 **1.04**) 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **54.2%以上** にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の **50%以上** にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 **(90.4%)** より増加させる。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を **65%以上** にする。(昨年度 **64.2%**)

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立墨江丘中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 85%以上 にする。 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 (6.9%) より減少させる。 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 (24.2%) より 1.0%以上 増加させる。 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95.5%以上 にする。 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> 「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 86.1%) 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 96.6%) 			
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容②【1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>不登校のみならず、教室で不安やストレスを感じる生徒に対して、落ち着いた空間を提供することで、学校に足を運ぶ第一歩を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理的安全を確保し、「学校=安心できる場所」というイメージの形成を目指す。 別室であっても学校の中に身を置くことで、教職員や同級生との関わりを少しづつ持ち続けられる。 <p>「別室に通い続けること」ではなく、生徒自身が安心して自分の将来を考えることができるステップとしてファーストペンギンルームの運営をおこなう。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 (6.9%) より減少させる。 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 (24.2%) より 1.0%以上 増加させる。 	進捗状況		

取組内容③【1 安心安全な教育環境の実現】

生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。また、いじめ・命を考える日を活用して「いじめ」について全校生徒で考えることで、いじめを未然に防ぐための取り組みを入れる。

指標

年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **85%以上** にする。

取組内容①【2 豊かな心の育成】

- 墨江・清水丘連合会に、生徒の防災リーダーを認定し、自主的に避難行動、地域貢献ができるように促す。またそのことにつながるよう、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく。
- いのちの教育を通じて命の大切さを学ぶ。実際に災害を経験した有識者や様々な命に関する専門家を招いて講話をする機会を作ったり、命に対して考えるきっかけになる研修・体験活動を行う。

指標

年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を **95.5%以上** にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立墨江丘中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 40.8%以上 にする。 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より 0.01 ポイント 向上させる。(2 年 前年度 国語 1.06 数学 1.17 3 年 前年度 国語 1.04 数学 1.04) 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 54.2%以上 にする。 			

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>総合的読解力（①情報を読み取る力、②考えを形成する力、③考えを交流する力、④考えを表現する力）を育成する授業を、年間 35 時間以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年で総合的読解力育成カリキュラム（年間 10 時間程度）を実施する 全教科で言語活動（25 時間以上）を充実させる 各学年で探究学習（①課題の設定、②情報の収集、③情報の整理、④まとめ・表現）の実践研究を行う。 総合的読解力育成のために、全教員が研究授業（年間 1 回以上）・相互授業参観（年間 2 回以上）を行う 	
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度（40.7%）より増加させる。</p>	
<p>取組内容② 【5 健やかな体の育成】</p> <p>体育的行事の充実を図るとともに、各種目、基礎的な運動から、ゲームなどの実践的な運動を実施する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度（54.1%）より増加させる。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立墨江丘中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】			
<ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 (90.4%) より増加させる。 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 65% 以上にする。(昨年度 64.2%) 			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容① 【6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】			
<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用する授業で、主体的・対話的な学びの在り方を研究する。 大型モニター（プロジェクター）を活用した、わかりやすい授業の在り方を研究する。 			
指標			
<ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 (90.4%) より増加させる。 			
取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】			
<ul style="list-style-type: none"> 墨江丘タイムの日（年間 6 回以上）やノー残業 day（年間 12 回以上）を設定し、教職員の働き方改革をすすめる。 年間の標準授業時数（1015 時間）を大幅に上回らないように、カリキュラム・マネジメントを行う。 			
指標			
年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 65% 以上にする（昨年度 64.2%）。			

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 3)

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立墨江丘中学校 学校協議会

1 総括についての評価

2 年度目標ごとの評価

年度目標 :

年度目標 :

年度目標 :

3 今後の学校園の運営についての意見